

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」のお話をブックレットにまとめ、発行しています。無料でどなたにでも差し上げますので、ご希望の方は、キリスト教センターへどうぞ。チャペルにも置いてあります。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洸善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纒)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(柏木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？
- こどもの物語と聖書に見られる<しょうがい者>差別 -」
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？ - 間(はざま)から読む聖書」
(金 永秀)

目次

敬神愛人	大塚 信明 (2)
あなたのぬくもり	葛井 義憲 (5)
敬神愛人とセレンディビティ	赤楚 治之 (7)
隣人にささげたいのち	奈良 章 (9)
新入生のみなさんへ	(12)



敬神愛人

大塚 信 明

ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

(新約聖書 マタイによる福音書 22章34~40節)

毎年12月12日になりますと、日本漢字検定委員会から一つの漢字が発表されます。京都の清水寺の館長さんが、大きな紙に大きな筆で一年を象徴するその漢字一文字を書いて、お披露目されます。12月12日、つまり語呂合わせでいい字を一字でということから、その日が選ばれています。ハガキやファックス、またはメールなどでどなたでも応募することが出来ますが、それを12月の初めにまとめて、一番応募があった字をしぼって発表しているのです。マスコミで報道されていますのでご存知の方も多いかと思いますが、昨年の一文字は“偽”(にせ)という漢字でありました。一年の間、偽というのが印

象として人々に残り、選ばれたのでありました。残念なことに今年もまだ、この偽(にせ)という字を引きずった状況があちらこちらで起こっております。こういう字が、一年を通じて私たちの心の中に一番強烈に残っているというのは、大変悲しく残念なことです。また、この少し前に選ばれた漢字は“毒”でありました。これは、“和歌山のカレー毒物混入事件”が印象深かったということからきているのです。一つの国が、その一年を振り返って表わす言葉が、“偽”とか“毒”というのも本当に情けないことだと思います。また、地震や台風の大きな被害があったときは災害の“災”(わざわい)という

漢字が選ばれました。ずっと辿って行けば、何かいい漢字に出会えるかもしれないと調べていったところ、ようやく“命”が選ばれた年がありました。けれどもこれが選ばれた理由は、その一年は小中学校でいじめが多く頻発し、また小さな子供さんの命が奪われた事件も多かったため、“もっと命を大事にする年であって欲しい!”という、強い願いからのものでありました。また、2005年は“愛”という字が選ばれました。これはこの名古屋で愛・地球博が開催されたことや、卓球の福原愛選手とかゴルフの宮里藍さんというふうには、“愛”がつく人物が大変活躍されたということで選ばれました。また反面、選ばれた理由として愛のない事件が多く、人間の愛が欠乏した一年だったということでもあったそうです。

五木寛之さんという作家がおられますが、この方がこういうことを書いておられました。

「今、私たち日本人の心はカラカラに渴いています。この渴いた日本人の心を潤していくには、月並みな表現だけれども“愛”、やはりこれしかないのではないか・・・」

この名古屋学院大学の建学の精神の言葉は「敬神愛人」であります。神を敬い愛し、人を愛するということであります。「神を愛し、人々を愛することが最も大切な掟である」とイエスは教えておられます。図面的に考えますと、

神を愛するということが、垂直の線と例えることができます。そして、人を愛するというのは、水平的なものだと考えられます。神を愛する垂直の線と、人を愛する水平の線とが交わったところに“私”が存在しています。「じゃあお前は神を愛する垂直の線がすうっと一直線に立って、しっかりとした不動のものなのか?」と問われたとして、私は牧師ではありますが、答えは・・・決してそうではありません。また水平の線にしても、ボランティア活動などに参加したりいたしますが、自分の都合があるとついそちらを優先してしまうこともあります。本当の意味で人を愛しているのか、いつも神を敬い愛しているかと自問自答するとき、その線は縦にも横にも短いものだと考えさせられます。あるいは、垂直の線が時に斜めになったり歪んだりしてしまいます。その模範的な生き方をした人物として挙げられるのは、神を本当に愛し敬い、人びとを心から愛することができた、イエス・キリストただお一人であります。

私は小さな手帳を持っており、そこにJRの時刻表を書き留めたり、あるいは今日あった出来事などを綴ったりしています。先ほど、さっそく手帳の10月14日(本日)の欄に、やや大きめの文字で、“夢”と書きました。それは、このキャンパスに来てこちらの学生さんたちの顔を拝見した時に「ああ、やっ

ばり若いっていいなあ。前向きで積極的
的でいいなあ。」という思いを私は戴く
ことが出来ました。この年齢になって
きますと、だんだんと思いや活動が
ついに消極的になってきます。「この歳であ
っても、もっと自分は夢を持たなけれ
ばならない」ということに先ほど気づ
かされ、“夢”という字を書き記しまし
た。皆さんもその日一日の特徴を、毎
日でなくてもいいので書かれるといい
のではないかなと思います。友達と美
味しい酒を呑んだら、その日は“酒”
とだけ記してもいいでしょう。ある
いは、彼女に花をプレゼントしたら、美

(おおつかのぶあき 飛騨高山教会牧師 2008.10.14 大学創立記念日礼拝)



しい字で“花”と一字書き添えてみる
のもいいでしょう。一字でなくとも、
家から仕送りがあった日には心をこめ
て“感謝”というふうに書かれてもい
いかと思います。そして、皆さんがい
つかこの大学を卒業していかれる時ま
では、“敬神愛人”という言葉をし
っかりと心の中に書き留めておいて欲
しいと思います。“神を愛し、人を愛す”
という言葉に深く刻むことで、皆
さんの人生において、垂直と水平の十
字架が、強く、大きくなっていくこと
を願っております。

あなたのぬくもり

葛井 義 憲

今日は、最近私が出会ったある出来
事を少し皆さんにお話したいと思いま
す。皆さんは自分自身のことを、“計算
高い人間かな？”と思ったことがあり
ますでしょうか？このことは損になる
かあるいは得になるか、あいつは利用
出来るか、この機会は自分の成功につ
ながるか、などの計算をしながら行動
をしたり、相手を眺めていたりしたこ
とはないでしょうか？損か得かという
ことで自分の周りの出来事をつい見
たりすることはないでしょうか。こんな
計算や打算でも生きていたならば、周
りはあなたを信頼し、周りから頼ら
れたりするのでしょうか？その人間が
計算高い人物だということが分から
ないとき、人はそのような人物に騙
されるかもしれません。しかしその
うちにその人物が計算高く、利害だけ
で仲間や友達を作り、利用しているこ
とを周りが感じ始めたときに、次第に
その人物から人々は離れていくよう
になります。私たちが心を打たれ、信
頼できる人というのは、嘘がなく、誠
実で、誰も見ていないところで真面
目にこつこつと努力を重ねている人
間だと思

のです。自分の善行を誇らず、ひけ
らかさない。これは実際中々難しいこ
とです。善い行ないをして周りの評
価を得たい、これは自然に私の心の
内にもある感情であります。しかし、
自分の善行を誇り、周りにそれを告
げるのではなく、淡々と自然に善い
ことする・・・そういった姿に、周
りは自然と信頼を置くようになって
いきます。

マタイによる福音書の6章3節に、“
右の手のすることを左の手に知ら
せてはならない”という文章があり
ます。私は大変いい言葉だと思っ
ております。自分の善行を誰にも
告げず、その行いを善い行ないだ
と考えず、自然に行える姿勢が、
その言葉の意味するところであ
ります。もし、こうした行為が相
手になされた時、相手の心の内に
温かなものが湧いて、感謝の気持
ちが溢れてくるのです。「私はこれ
だけやったんだ」と言われると反
発心さえ招いてしまいますが、何
も言わずそっと温かな手を差し
伸べられたときは、心の内に自
然と感謝の気持ちが湧き上がるも
のです。

瀬戸キャンパスにはスクールバスが

敬神愛人とセレンディピティ

赤 楚 治 之

走っています。以前、スクールバスを運転していた女性が、再度この5月からドライバーとなりました。彼女は4,5年前までこのスクールバスを運転しておりました。しかしある年の3月、この仕事を辞めなければならなくなりました。お母さんのような存在の彼女は、学生からとても慕われていたので、そのことを知った学生たちはとても寂しがりおりました。3月に入ってそのことが学生たちに知れ渡り、何名かの学生が“どうして辞めるのですか？”と彼女に尋ねてきました。3月15日がきました。瀬戸の卒業式の日でした。彼女はこの日もいつものように何回も、瀬戸キャンパス～高蔵寺間を往復しておりました。卒業式も終わり、最後の運転も終わり、午後2時頃のことです。この日卒業した女学生が、花束と手紙を持って彼女のもとを訪ねて来ました。そしてその学生は、彼女に「4年間ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えました。その手紙には“運転手さんの働きと温かな思いを忘れません”と綴られていたそうです。

彼女はその4月からコンクリートミキサー車に乗ることになりました。この新しく就任した仕事は体力のいる仕事で大変厳しく、とても辛いものがあっ

たようです。彼女はいつも傍らの助手席に、卒業式の日にもらった女学生からの手紙を置いて、どうしようもなく辛いとき、これを読んで励まされていたそうです。そしてまた、この5月から本学のスクールバスの運転手として戻ってこられることになりました。この卒業生は何も打算的なことや思惑や計算があって、卒業式の日には花束と手紙を渡したのではもちろんありませんでした。この卒業生の運転手さんに対する素直な感謝の気持ちと温かな思いが、自然にそのような行為となったのです。しかし、この手紙がその後の運転手さんの大きな励みになっていたということは、この卒業生は知る由もなかったでしょう。しかし、この出来事は運転手さんに大変大きな力と生きる希望を与え、心の内に温かなものをずっと残していくことになったのです。“右の手のことを左の手に知らせてはならない”……。私たちが毎日を生きるにあたって、大変考えさせられる言葉だなと思いました。皆さんが無意識のうちに行っているふとした働きや言葉が、周りの人に何か生きる力や勇氣、希望、励ましを与えているかもしれません。

「敬神愛人」先日この言葉の意味を学生に尋ねてみましたところ、何人かの学生たちは知りませんでした。知っていた学生が「それは本学の建学の精神だよ」ということを、知らなかった学生に教えていました。多分皆さんも、日常的には建学の精神を意識することはないでしょうし、「敬神愛人」という言葉も聞き逃してしまっているのではないかと思います。「敬神愛人」というのは、若い時期には空気のように見えなく感じるものではないものかもしれません。しかし、これから皆さんが、山もあれば谷もある人生において、様々なことを経験していく中で、大学時代には全く気にも留めなかったこの言葉「敬神愛人」が、非常に大きな意味を持つ可能性があるのです。そのためにも、この4年間、時々目や耳に触れる「敬神愛人」という言葉、これを頭の片隅にでもいっしょにそっと置いていて頂きたいと思います。人生に行き詰まったとき、この言葉がふと頭をかすめるかもしれないからです。この言葉の持つ大きな意味合いを、そういったときに考えることによって「神とはど

ういう存在なのか？」「人を愛するということはどういうことなのか？」ということ深く理解できるのです。

私が今日ここでお話ししている内容は、最近、脳科学や認知科学などでいわれております「セレンディピティ」にあたるものだと考えています。「セレンディピティ」という言葉を聞いたことのある人もいるかもしれませんが、これについては色々な訳がなされております。その一つに“偶然の幸運にめぐり合う能力”という訳語があげられます。偶然に出会う能力というのは、「偶然」に出会える人はその偶然への出会いを準備している人、その偶然を見落とさない人であるという意味です。一番簡単な例を挙げますと、17世紀に有名なニュートンという科学者がいました。彼が万有引力の法則を思いつききっかけとなったのは、りんごが木から落ちる様子を見ていた時であったというエピソードがあります。木からりんごが落ちる現象というのは、りんごが存在するようになってからずっと起こっている当たり前のことで、それまでの人間は繰り返し繰り返し

(ふじいよしのり 宗教部長・人間健康学部長 2008.6.26 カレッジアワー奨励)

返し、目の当たりにしていた現象だったわけです。しかしニュートンだけがそのりんごの動きから“引力の法則”を見抜くことになったのです。なぜなのでしょう？それはニュートンが「ものの動き（運動）」について思いをめぐらしていたからなのです。つまり、ニュートンにはそのことに気づく準備が出来ていたからなのです。すなわち、ニュートンは目の前に起こっている当たり前のことから、他の人には気づかないことを気づくことが出来た、この力がセレンディピティというものなのです。もっと新しい出来事でいいますと、東大の名誉教授である小柴昌俊さんがカミオカンデという装置でノーベル賞を受賞しました。しかし、もともと小柴さんはノーベル賞の対象となった現象を捉えるために、あの大きな装置を作ったわけではありませんでした。彼は違う現象を捉えるために、あの装置をずっと研究し作っていたのです。結果的にはその期待していた現象というのは起こりませんでした。しかし待ち続ける経過の途中で、あのノーベル賞受賞の対象になった現象がキャッチされたわけです。15万光年といいますが、光の速さで15万年かかる所で超新星が爆発して、その時に出了ニュートリノという物質をカミオカンデの装置で感知することが出来たのです。違う

ものの結果を待っていたときに、思いがけずこれをキャッチ出来たのです。この能力もまたセレンディピティといえます。ですから私たちの実生活の中でも、この能力は非常に重要だということを認知科学では唱えています。そういった心の準備、すなわちアンテナを広げておくということが非常に重要だということなのです。

元の話に戻りますが、大学の建学の精神である「敬神愛人」という言葉を、皆さんがずっと頭のどこかに置いてこの先生活していった場合、何か引っ掛かってくるときが必ず来るはずで、そしてその時、あなた自身のこと、この世の中のこと、そして神のことなどを深く考える機会が与えられることになるのです。ですから、クライン博士が約120年前にこの言葉を私たちに残して下さったということは非常に重要なことだと、私は名古屋学院大学に来てから考えております。日常的には忘れていたことが多くと思いますが、皆さんもこれから先この言葉を噛みしめるときがきっと人生には起こります。その時までこの「敬神愛人」という言葉を大切に頭の片隅にしまっておいて下さい。その時がきたらこの言葉の持つ意味合いが、あなたの心を高め、満ちし、そして癒してくれることがわかるはずで、

(あかさなおゆき 外国語学部長 2008.5.15 カレッジアワー奨励)

隣人にささげたいのち

奈良 章

私は現在、財務課にいますが以前は国際交流センターで留学生のお世話や、学生さんへの留学の情報提供などをしていました。また、その後キャリアセンターでは就職支援などを行っていました。

昨今は以前に比べ、格安で海外旅行や留学に行くことが可能になりました。多くの若者が車やファッション、また携帯電話などにお金を費やしていますが、是非学生時代に日本を飛び出してカルチャーショックを受けてください。海外に行きますと、自分が当たり前のように思っていたことでも当たり前ではなく、さまざまなものの見方、考え方をする人たちに出会えます。そういった人たちと触れ合うことは、とても大切なことだと思います。また、キャリアセンターにいた時の経験から、皆さんには学生時代に何でも好きなことに一生懸命挑戦して欲しいとアドバイスをします。それはスポーツでも勉強でもアルバイトでも趣味でも、どんなことでも結構です。熱心に取り組んだ経験、姿勢が皆さんの自信につながり、宝となるのです。学生生活の4年間は長

いようであつという間です。身近な目標を立て、有意義な学生生活を送ってください。

さて、私とキリスト教の関わりは学生時代に始まりました。皆さんと同じように学生時代にキリスト教関連科目を履修していたのですが、必修科目の一つであったキリスト教には関心はありませんでした。しかし社会人となってから様々な出会いがあり、その中で縁があって洗礼を受けることが出来、今日までずっとキリスト教と関係を持ち続けています。日常、仕事をする上で、キリスト教と関わりのある学校に勤めているという意識はあまりないのですが、曙館の窓越しにチャペルを見たり、先ほども鳴り響いていました鐘の音に耳を傾けながら、ミッションスクールにいるのだという思いを新たにしています。

私は以前茶道を習っていました。当時、お稽古をしていたときにいつも感じていたことがあります。日本の文化の代表とされている茶道のお手前と、キリスト教の典礼がとても似ているのです。茶道のお手前の手順でお茶碗を拭く動

作があるのですが、それとキリスト教の典礼の中で神父様がぶどう酒を飲む前の器を清める動作がとても近いのです。あるいはお茶の種類にしても薄茶と濃茶というのがありますが、どろどろの濃茶というのは皆が回し飲みで飲んでいくわけです。やはりその動作と、典礼の中でぶどう酒を順に飲んでいく動きが非常に似ています。ちょうど茶道が確立された時代というのが、日本にキリスト教が布教された時代でもあります。そういった影響もあるのではないかと思ひながら稽古をしていました。ちなみに高山右近という有名な武士がいます。この人は茶道を大成させた千利休の高弟の一人であり、キリシタン大名としても著名な人です。

皆さんもご存知のとおり「敬神愛人」という本学の建学の精神がありますね。この言葉はいろいろな所で皆さんの目に触れると思います。神を敬い、人を愛するということですが、この漢字を一文字「神」を「天」に変えて「敬天愛人」という教えを唱えた有名な人がいます。皆さんどのような人が想像がつかますか？江戸時代から明治時代へと移る頃に活躍された人ですが、それは鹿児島出身の西郷隆盛です。もちろん、彼はキリシタンではありませんでした。彼は武士の道徳とか朱子学を中心に学んでおり、そこから自分の考えや思想を編み出していきました。それが「敬天愛人」なんです。元は違いますが、キリスト教の福音の世界に非

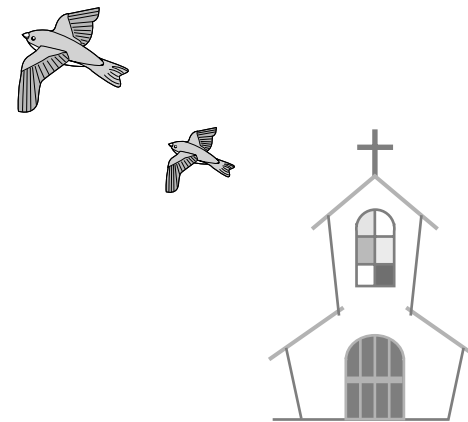
常に近いものを彼は思想に持っていたということなのです。

今日は先ほど隣人愛について触れた部分で朗読されましたが、その隣人愛を究極の状況の中で示した、ある一人のキリスト教の神父様のお話を皆さんに紹介したいと思います。マキシミアノ・コルベという名のポーランド出身の神父様です。クライン博士が名古屋学院大学の前身であります名古屋英和学校を1887年に創った43年後の、1930年にこの神父様は長崎に来られ、熱心に宣教活動をされました。6年間の日本滞在の後にポーランドに帰国しますが、当時は第二次世界大戦に向かっていく最中でありました。その中でこの神父も1941年、ナチスに捕らわれてしまいます。この方はユダヤ人ではありませんでした。しかし、ホロコースト（大量虐殺）で悪名高いアウシュビッツの強制収容所に送還され、非常に過酷な収容所生活を強いられることとなりました。彼はキリスト者としてナチスに対し批判的な立場をとっていたため、逮捕の対象になってしまったわけです。1941年の7月に、このアウシュビッツの収容所で脱走者が出ました。そのために収容者の中から無作為に10名が選ばれ、餓死刑つまり何も食べ物を与えられず牢獄に入れられるという状況に置かれることになりました。コルベ神父はその10名の中には選ばれていませんでしたが、その選ばれた人たちの中の一人が「私には妻と子どもがいます！」

と叫んだのを聞いて神父は、「私が彼の身代わりになります」と名乗り出たのです。多くの人たちが悲惨な状況で苦しんでいるとき、コルベ神父のこの行動は人々の大きな慰め、励みとなりました。最終的にコルベ神父は餓死することが出来ず、注射によって命を絶たれるわけですが、その生き方は大きな影響を後世に残すこととなり、「アウシュビッツの聖者」と呼ばれるようになりました。神父が収容されていた地下牢には「人間が人間に対して・・・」という言葉がラテン語で書かれているそうです。ヨーロッパには「人間が人間に対して狼になった」という古いことわざがあるそうです。これは現代の競争社会でも通じるような言葉です。先ほどの「人間が人間に対

して・・・」という所で終わっているメッセージの後に続く言葉として、やはり我々は狼にもなれるが、悲惨な状況であっても人間であることが出来るという意味が込められているということが出来ます。すべての人が狼になるような状況の中で、「一人の人間が人間のために本当に人間として生を全うした・・・」これがコルベ神父の生き方でした。このようなコルベ神父の目指した愛と平和の行いは、今日ここにいらっしゃる私たちへの命がけの励ましと捉えることができます。ミッションスクールである名古屋学院大学で見たり聞いたりした福音の言葉や生き方が、将来皆さんの大きな励み、また慰めとなることを願っています。

(なら あきら 財務課長 2008.7.3 カレッジアワー奨励)



新入生のみなさんへ

敬神愛人



(F. C. クライン)

「先生、法律の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」
イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを
尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最
も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分の
ように愛しなさい。』 - 」

(新約聖書 マタイによる福音書22章36節～39節)

名古屋学院大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。
皆さんは自分で選んだにせよ、大学に選ばれたにせよ、とにかくこの
大学の学生となられたのです。皆さんはこれから勉強される大学につ
いて、どのようなことをご存知でしょうか。これからいろいろな機会
に聞かれたり、読まれたり、学んだりされると思いますが、ここでも
少しお伝えしておきたいと思います。

私立の学校はそれぞれ独自の理念、「建学の精神」を持って建てら
れ、またそれを継承して運営されています。わが名古屋学院大学の
「建学の精神」は「敬神愛人」です。これは冒頭に書かれています新
約聖書の、イエス様の言葉から来ています。

人間は神を愛し敬うこと、そして自分を愛するように隣人を愛する
こと、この「敬神」と「愛人」を一番大切な掟として守らなければなら
ないという、イエス・キリストの教えです。これは、ただ人と仲良く
しなさいというヒューマニズムからだけでなく、神を敬うことによっ
て成立する隣人愛です。これを教育の基本にしているのです。

1883年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C. Klein) という宣教師がキリスト教の伝道と英語教育を目的として

来日しました。そして横浜に英語学校、教会を創るなどの成果をあげ、
彼が次の着任地として夫人と名古屋に来たのは1887年でした。そして
名古屋に着いたその日から英語の学校を開いたのです。「愛知英語学
校」と名づけられた学校は「名古屋英和学校」と改称され、それがわ
が名古屋学院大学の基となりました。その時、クライン博士がその教
育の基本理念として掲げたのが「敬神愛人」でした。

皆さんはこれから少なくとも四年間はこの大学の学生として勉強をし
ていきますが、人間としての自らを成長させることにも励んでください。

そして私たちは祈っています。「敬神愛人」が示すように、皆さん
が自分を愛するように他人を愛することができますように、また、人
間の力を過信することなく、それをはるかに超えた存在を認める、謙
虚な人間へと成長を遂げることができますように。

チャペルへの招き

チャペルではチャペルアワー、カレッジアワーと称してキリスト教
の礼拝の時間を設けています。教職員や近隣教会の牧師の奨励を聴き、
賛美歌を歌います。大学は決して、皆さんにキリスト教の信仰を持た
せようと考えているわけではありませんが、世界の大きな文化の源流
の一つともいえるキリスト教に少しでも触れて、何かを感じていただ
ければと考えております。

<名古屋キャンパス> : チャペルアワー 火曜日12:40~13:10
カレッジアワー 木曜日12:40~13:10

<瀬戸キャンパス> : チャペルアワー 金曜日13:00~13:30

その他チャペルでは、様々な活動を行っています。
詳しくはチャペル前の掲示板をご覧ください。